

尾道市立久保中学校 第2学年 社会科学習指導案

単元名：「近世の日本」～ヨーロッパ人との出会いと全国統一～

尾道市立久保中学校

日 時：平成26年11月11日（火）第5校時（13：20～14：10）

学年・学級：第2学年1組 29名（男子15名，女子14名）

場 所：2年1組教室

単元について

本単元は、中学校学習指導要領社会（以下指導要領）2（4）「近世の日本」をもとに設定したものであり、特に、戦国時代から、織田・豊臣による統一事業を経て、近世の基礎がつけられるまでの歴史を扱うものである。

指導要領2（4）アでは、本単元について、「戦国の動乱，ヨーロッパ人来航の背景とその影響，織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係，武将や豪商などの生活文化の展開などを通して，近世社会の基礎がつけられていったことを理解させる」と示されている。

また，指導要領では，歴史的分野の学習の目標として，「歴史的事象に対する関心を高め，我が国の歴史の大きな流れを，世界の歴史を背景に，各時代の特色を踏まえて理解させ，それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに，我が国の歴史に対する愛情を深め，国民としての自覚を育てる」と示されている。このことについて，中学校学習指導要領解説社会編（以下解説）は，「歴史的分野の学習の中心は『我が国の歴史の大きな流れ』の理解であり，『各時代の特色』はそのために踏まえるべきものだという位置付けを明確にしたものである」と述べている。さらに，指導要領では，歴史的分野の学習の目標として，「身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め，様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる」と示されている。このことについて，解説は「幅広い資料の中から，必要な資料を選択して有効に活用することで，歴史的事象を一面的にとらえるのではなく，様々な角度から考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育成することが大切である」と述べている。

本単元で扱う戦国時代と安土桃山時代は，奈良時代や平安時代，江戸時代のように，核となる政庁の所在地によって時代区分されたり，明治時代や大正時代，昭和時代のように，皇位の継承によって時代区分された時代ではない。「室町時代」とは，京都室町に政庁が存在した時代を示しており，「戦国時代」とは，室町幕府，戦国大名，朝廷，一向宗勢力を中心とする農民勢力，都市に興った新興勢力など，様々な権力が混在する，不安定な時代を示している。また，「安土桃山時代」は，戦国時代の混乱から，主に織田・豊臣によって統一政権が誕生し，更に強固な政権（江戸幕府）が成立するまでの時代をさし，決して「安土」「桃山」といった一時的な政庁の所在地によって名付けられた時代区分名ではない。このことから，生徒が接する多くの年表では，政庁の所在によって示された時代区分名である「室町時代」と，時代の特性によって表された時代区分名である「戦国時代」，さらに「戦国時代」と「安土桃山時代」が並列的に示されており，時代区分名によって歴史の大きな流れをつかもうとする生徒の理解に混乱を生じさせる一因となっている。

以上のことから，歴史の大きな流れを理解させるためには，時代区分の名称や，その時代に生じた様々な歴史的事象について学習するととどまらず，それぞれの時代の特色を正確に理解させる必要がある。また，それぞれの時代の特色を理解させるためには，それぞれの歴史的事象の学習に活用した，写真資料，文章資料，絵図，表など，様々な資料を根拠として，多面的・多角的に考察・判断させる必要がある。

本単元で扱う戦国時代と安土桃山時代は，先述したように，時代の特色によって区分された時代である。このことから，これらの時代の学習においては，様々な資料を根拠として多面的・多角的に考察・判断させ，その結果を適切に表現させる活動を通し，時代の特色を理解させるに相応しい単元であると考え，本単元を設定した。

調査結果からみる課題

学力定着実態調査

右の表は、平成 26 年 4 月に該当学年において実施した「尾道市学力定着実態調査」の結果である。本校の教科全体の通過率は、全国平均より 8.3 ポイント下回っている。

該当学年の生徒には、学習に示す意欲や関心が顕著に乏しい生徒や、社会科は「暗記教科」とであるととらえ、社会的事象に関わる知識や社会的用語を個別的・分断的な知識として暗記するにとどまり、様々な資料から社会的事象に関する様々な情報を見つけだし、それら複数の情報を関連づけ、学習課題について追究していこうとする生徒は少ない。このことは、「社会的な思考・判断・表現」が全国平均よりも 6.3 ポイント下回っている点や、「資料活用の技能」が 7.6 ポイント下回っている点にも表れている。

また、本校通過率と全国平均通過率の差が最も大きい観点は、「社会的事象についての知識・理解」である。このことは、個別的・分断的な知識を暗記することが、「知識」や「理解」の定着にはつながらないことを示しており、先に述べた「資料活用の技能」と「思考・判断・表現」を行う力を育成する指導を継続的に行っていく必要があると考える。

		本校	全国平均
教科全体		41.8	50.1
観 点	社会的事象への 関心・意欲・態度	36.7	41.4
	社会的な 思考・判断・表現	35.4	41.7
	資料活用の技能	44.8	52.4
領 域	社会的事象についての 知識・理解	40.8	49.7
	古代までの日本	40.5	47.8
	中世の日本	29.3	39.5

個人カルテによる分析

学力に特に課題のある 3 名を抽出し、個人カルテの分析を行った。これによると、Q-U の結果、要支援群に該当するとされた生徒 C は、生徒指導の三機能のうち、自己存在感の値と共感的人間関係の値が著しく低いことが分かった。また、非承認群に該当する生徒 A は、他の値と比較して自己決定の値が、そして、学級生活不満足群に該当する生徒 B は、自己存在感の値が低いことが分かった。そのため、本単元の授業を行うにあたっては、グループ学習を通して自分の考えを説明したり聞いたりする場面（自己存在感・共感的人間関係）を設定するとともに、グループで考察した結果に基づいて、個人の考えをまとめる（自己決定）場を設定する必要があると考える。

学力と Q-U との相関分析

※（数字）は、学力定着実態調査通過率。

学級生活満足群 (10人)	非承認群 (9人)	侵害行為認知群 (3人)	学級生活不満足群 (7人)	学級生徒不満足群のうち 要支援群 (3人)
	生徒 A (18)		生徒 B (35)	生徒 C (21)

指導改善のポイント

「学力定着実態調査」調査結果に関わる指導改善のポイント

上記「調査結果から見る課題」に示した本校該当学年の課題である「様々な資料から社会的事象に関する様々な情報を見つけだし、それら複数の情報を関連づけ、学習課題について追究していこうとする」力が身につけていない原因として、次の点を考える。

- ①資料を活用して、能動的に思考し、判断するような学習場面を設定してこなかったため、生徒は与えられた知識を覚えることを社会科の学習であるととらえてきた。
 - ②また、それぞれの社会的事象を理解する上で、資料を参考にする場合でも、事前に資料を読み取る視点を与えてきたため、生徒の思考は十分に働かなかった。
 - ③思考した結果を、生徒自らが、根拠を基に自分の言葉で表現する場面を設定してこなかった。
- これらのことから、今回の授業を指導するにあたっては、知識注入・暗記重視型の授業をさけ、資料に基づき生徒自らに、学習課題に対する知識を発見、理解させていく目的で、次のように改善する。
- ①社会的事象に関する複数の資料を準備し、それら資料の関係性の把握→分類→分類された資料へのラベリングを行わせることを通して、生徒自らに学習課題を解決するための視点を発見させる。
 - ②発見した視点を根拠として、学習課題に対する生徒自らの考えを文章化（結論）させる。
 - ③視点を発見するにいたる思考や、結論（文章）を他者に説明させたり、他者の考えを再度根拠として、自らの結論（文章）を直させることを通して、自らの理解を修正、あるいは理解を深めさせる。

また、学習課題は、「単元観」に記述した「歴史の大きな流れ」を把握させる目的にかなうものを設定する。

個人カルテ分析に基づく指導改善のポイント

個人カルテにあげた生徒は、いずれも、学級内で認められることが少ないか、不安傾向の強い生徒かのいずれかであり、そのため、学習の場面においても意欲的になることができないと考えられる。このことから、授業を行うにあたっては、生徒指導の三機能を生かした指導を展開することにより、生徒の学習への意欲向上につなげていきたい。具体的には以下の点を指導に反映させる。

「資料の関係性の把握→分類→分類された資料へのラベリング」の場面においては、小集団学習を設定することで、お互いの意見や考えの交換、認め合いをさせる（共感的人間関係）とともに、小集団学習や集団学習で出された意見をもとに、学習課題について、自分の意見をまとめたり、再度、自分の意見を整理する場面を設定する（自己決定）。また、小集団学習に際しては、全ての生徒が意見を開示し、互いの意見を尊重するように指導し、意欲的に学習できる雰囲気醸成する（自己存在感）。

また、指導者は、各小集団から出された意見を受け止め、尊重する。また、小集団学習中の机間指導の際に、意見を表明できない生徒への配慮、生徒の発言を承認する等の活動を通して、生徒の学習意欲を向上させる。

さらに、資料中のキーワードとなる単語を枠で囲むことで、学力に課題のある生徒への支援を行うとともに、ワークシートを、生徒の思考の手立てとなるよう工夫する。

単元の目標

○戦国時代の混乱の時代から、織田・豊臣による統一事業を通して、新しい安定した社会が生まれたという大きな時代の流れを理解させる。

- ・戦国時代とは、統一政権が存在せず、室町幕府、戦国大名、朝廷、一向宗勢力を中心とする農民勢力、都市に興った新興勢力など、さまざまな勢力が混在する、不安定な時代であったことを理解させる。
- ・安土桃山時代とは、主に織田・豊臣による統一政権が誕生し、安定した時代であったことと、社会的な安定を背景に、産業・交通が発達、新しい文化が誕生したことを理解させる。

【単元の評価規準】

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 知識・理解
<p>①歴史の大きな流れを理解するため、歴史的事象についての資料や、それらの資料が示す事象に関心を高め、学習課題を意欲的に追究している。</p>	<p>①資料をもとに、時代の特徴について、多面的・多角的に考察し、考察した結果を適切に判断し、自分の言葉で表現している。</p> <p>②新しい文化の誕生を、政治や、世界の動きとの関連から、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p>	<p>①戦国時代から安土桃山時代へと、近世社会が成立する過程に関する史料、図、写真、年表、地図などの様々な資料を適切に読み取ったり、読み取った結果をまとめたりしている。</p>	<p>①統一政権が存在せず、室町幕府、戦国大名、一向宗勢力を中心とする農民勢力、都市に興った新興勢力など、さまざまな勢力が混在する、不安定な時代（戦国時代）から、織田・豊臣による統一事業を通して、新しい安定した時代（安土桃山時代）が生まれたという大きな時代の流れを理解している。</p> <p>②近世社会の成立について、次の点との関係について理解し、その知識を身につけている。</p> <p>a 世界の歴史 b 新しい文化の形成 c 織田・豊臣の統一事業</p>

指導と評価の計画

(全9時間) 本時 1 / 9

次	時	学 習 内 容	評 価					
			関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	1	戦国時代とはどのような時代か、時代の特色について説明する。 ・統一政権が存在せず、さまざまな勢力が混在する、不安定な時代 【本時1/9】	○	◎			ア①あ イ①あ	行動観察 ワークシート
2	1	南蛮人が日本をめざした背景について、理解する。 ・イスラム世界と十字軍 ・ルネサンス ・宗教改革 ・大航海時代			○	◎	ウ①あ エ②a	行動観察 ワークシート
3	1	南蛮人が日本与えた影響について、理解する。 ・鉄砲伝来 ・キリスト教伝来 ・南蛮貿易			○	◎	ウ①あ エ②b	行動観察 ワークシート
4	1	織田・豊臣の統一事業の特色について、理解する。 ・織田信長の統一事業 商工業の発展(楽市楽座 関所の廃止 南蛮貿易) 宗教政策(仏教勢力に厳しい キリスト教の容認)			○	◎	ウ①あ エ②c	行動観察 ワークシート
	2	織田・豊臣が行った統一事業について、理解する。 ・豊臣秀吉の統一事業 兵農分離(太閤検地 刀狩) 宗教政策(バテレン追放) 外交政策(朝鮮出兵 南蛮貿易)			○	◎	ウ①あ エ②c	行動観察 ワークシート
5	1	安土桃山時代とはどのような時代か、時代の特色を説明する。 ・織田・豊臣による統一政権による、安定した時代。	○	◎			ア①あ イ①あ	行動観察 ワークシート
6	1	桃山文化の特色を、説明する。 ・統一政権による安定した社会を背景とした豪華で壮大な文化 ・ヨーロッパ文化の影響	○	◎			ア①あ イ②あ	行動観察 ワークシート
7	1	単元のまとめをする。 ・戦国時代から安土桃山時代への歴史の大きな変化を説明する。	○			○	ア①あ エ①あ	行動観察 ワークシート

本時の学習

(1) 目標 戦国時代とは、統一政権が存在せず、さまざまな勢力が混在する、不安定な時代であったことを説明することができる。

(2) 観点別評価規準

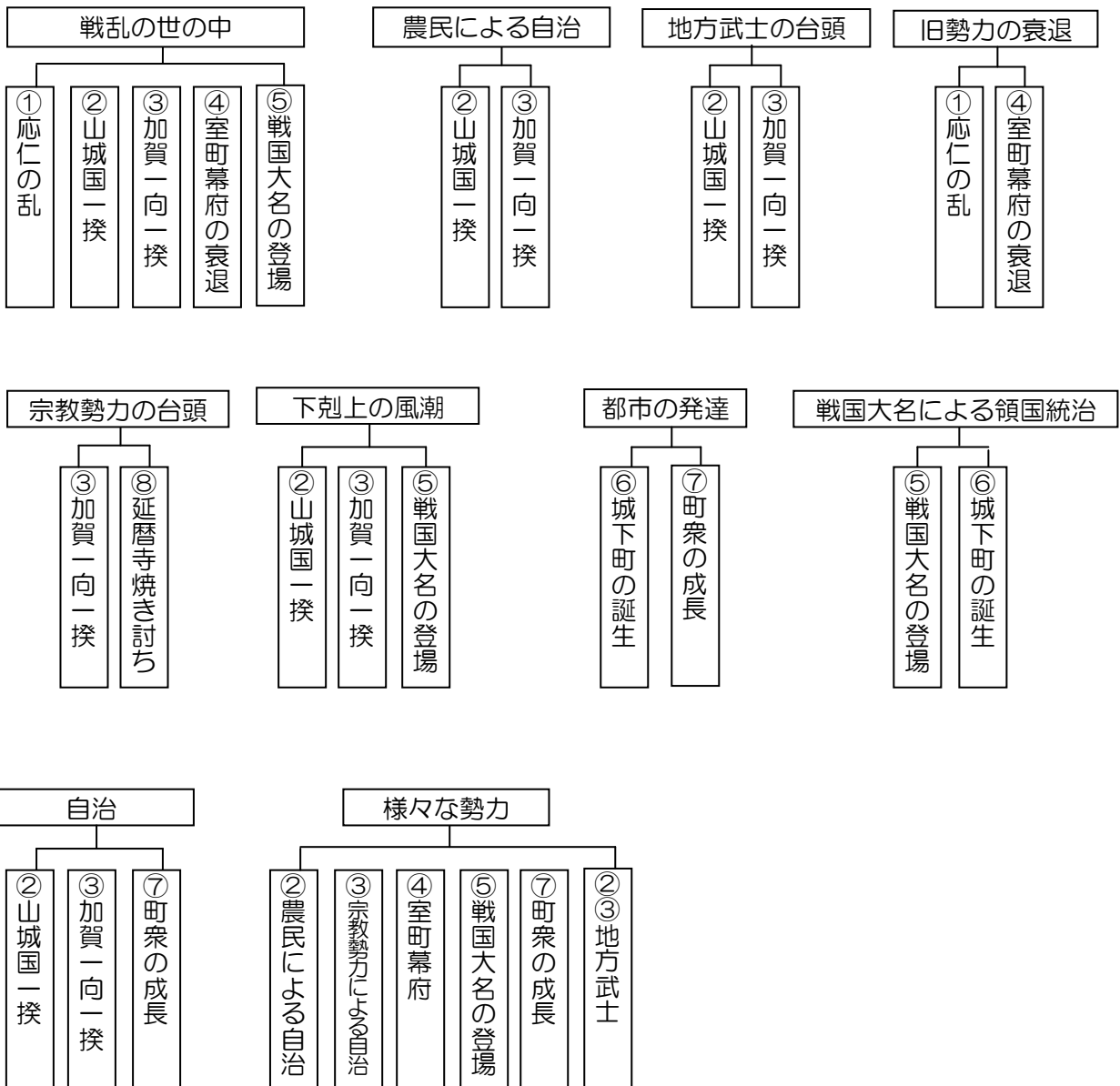
ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な 思考・判断・表現
戦国時代の特色を理解するため、資料が示す事象に関心を高め、学習課題を意欲的に追究している。	資料をもとに、戦国時代の特色について、多面的・多角的に考察し、考察した結果を適切に判断し、自分の言葉で表現している。

(3) 本時の学習課題を考察するために必要な知識→「本時の学習」の配付資料

(東京書籍教科書より抜粋 一部改変)

- ①室町幕府第8代将軍足利義政の時に、将軍の跡継ぎ問題をめぐって、有力な守護大名の細川氏と山名氏が対立すると、1467年には11年にわたる応仁の乱が始まりました。
- ②山城(京都)南部では、武士と農民が一体となって守護大名を追い払う山城国一揆を起し、自治(人々が自分たちの手で政治を行うこと)を行いました。
- ③浄土真宗(一向宗)の信仰で結びついた武士や農民たちが、各地で一向一揆を起し、加賀(石川)では、守護大名を倒し、約100年にわたって自治を行いました。
- ④室町幕府の将軍は、京都を中心とするわずかな地方を支配するだけとなりました。
- ⑤実力のある者が力を伸ばして、身分に打ち勝つ下剋上の風潮が広がり、各地に戦国大名が登場するようになりました。
- ⑥戦国大名は、山に築いていた城を交通の便のよい平地に築くようにして、城の周辺に家来を集め、商工業者を呼び寄せて城下町をつくりました。
- ⑦京都では、自治をになった町衆と呼ばれる裕福な商工業者によって祇園祭が盛大に行われました。
- ⑧織田信長は、延暦寺や一向一揆など、自分に従わない仏教勢力には厳しい態度で臨みました。

○想定される知識の分類とラベリング(下図の番号は、上記の番号と一致する)



(4) 学習展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準 評価方法
1 学習課題の提起と「本時のめあて」の確認		
<p>導入 8分</p> <p>「次の時代、政治の中心地はどこに置かれたか。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>飛鳥時代→生徒「飛鳥地方」 奈良時代→生徒「奈良」 平安時代→生徒「平安京」 鎌倉時代→生徒「鎌倉」 室町時代→生徒「京都の室町」</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「ということは、戦国時代の政治の中心地は『戦国』というところに置かれたのだね。」 →生徒「違う。」</p> <p>「『戦国時代』という時代の名前が政治の中心地によるものでないとしたら、何から名付けられたものなのだろう。」 →「時代の特色から。」</p> <p>「年表を確認してみよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「室町」「安土桃山」は政治の中心地から名付けられた時代区分名であり、「戦国時代」は時代の特色から名付けられた時代区分名であることを確認し、それ故、年表では時代区分名が重複していることを確認する。 <p>「では、戦国時代とはどのような時代だったのだろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本時のめあて：戦国時代とは、どのような時代だったのだろう。時代の特徴を説明しよう。</p> </div>	<p>◇既習事項を再認させる。</p> <p>◇パワーポイントを使用し、視覚支援を行う。</p> <p>◇パワーポイントを使用して視覚支援を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <pre> graph TD A[室町時代] --- B[戦国時代] A --- C[安土桃山時代] B --- C style B fill:#fff,stroke:#000,stroke-width:1px style C fill:#fff,stroke:#000,stroke-width:1px style A fill:#fff,stroke:#000,stroke-width:1px </pre> </div>	
2 カードの分類とラベリング → 発表		
<p>展開 32分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦国時代とはどのような時代だったのか予想をさせる。 →文章で書かせ、発表させる。 ・資料を配付し、読ませる。【個人】 ・資料を分類させる。【小集団】 指示 「資料を仲間分けをしなさい。」 「その際、なぜそのような仲間分けをしたのか、仲間分けをできたグループごとに、分かるような 	<ul style="list-style-type: none"> ◆個人で熟読させる。(時間をとる。) 【自己決定】 ◇資料をカード状にしたものを配付し、分類をしやすくする。 ◆小集団学習においては、全ての生徒が意見を開示し、互いの意見を尊重するように予め指導し、意欲的に学習でき 	<p>戦国時代の特色を理解するため、資料が示す事象に関心を高め、学習課題を意欲的に追究している。</p>

言語活動の充実

<p>キャッチコピー（視点）を記しなさい。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>言語活動 ・表現の根拠となるキャッチコピーを記入する。</p> </div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>言語活動 ・キャッチコピーを根拠として時代の特色を自分の言葉で表現する。</p> </div>	<p>る雰囲気醸成する。 【共感的人間関係】【自己存在感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆資料のキーワードとなる単語を枠で囲んでおく。 ◆小集団学習中の机間指導の際に、意見を表明できない生徒への発言の促し、発言の承認等の活動を通して、生徒の学習意欲を向上させる。 ◇小集団学習で導かれたキャッチコピーを、根拠とともにワークシートに記入させる。 	<p>〔関心・意欲・態度〕 〔行動観察〕</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・戦国時代の特色を文章で表現させる。【個人】 ・いくつかの班に発表させる。【集団】 （キャッチコピーと説明文。） →質問や疑問点があれば出させる。 →質問や疑問を寄せられた班には回答をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆小集団学習で導き出されたキャッチコピーを参考にするよう指示する。 【自己決定】 ◇指導者は、各小集団から出された意見を受け止め、尊重する。 ◇班ごとの意見は、生徒に配付したものと同様のカードを予め準備し、生徒の発表に従い、黒板へ貼りだし、視覚支援を行う。 ◇他班の意見をワークシートにメモさせる。 	
<p>3 本時のまとめを行う</p>		
<p>まとめ 10分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自文章で表現した戦国時代の特色を修正させる。【個人】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>言語活動 ・他小集団の意見を根拠に加えて、自分の表現を修正する。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◆集団学習で出された意見をもとに、学習課題について、再度、自らの意見を整理する場面をとる。【自己決定】 修正は赤で行わせる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価基準】</p> <p>A 戦国時代とは、室町幕府、戦国大名、朝廷、一向宗勢力を中心とする農民勢力、都市に興った新興勢力など、本時の授業を通して生徒から出された分類を具体的に挙げながら、統一政権が存在せず、さまざまな勢力が混在する、不安定な時代であったことを説明している。</p> <p>B 戦国時代とは、統一政権が存在せず、さまざまな勢力が混在する、不安定な時代であったことを説明している。</p> <p>C 無記入。または、戦国時代とは、統一政権が存在せず、さまざまな勢力が混在する、不安定な時代であったことを説明していない。</p> </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【B評価解答例】</p> <p>戦国時代とは、日本全国を統治する人や政府がなく、戦国大名をはじめ、いろいろな人たちや組織が、入り混じって統治していた、混乱の時代だった。</p> </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ・数名の生徒に発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇机間指導の際に予め決めた生徒に発表させる。 	<p>資料をもとに、戦国時代の特色について、多面的・多角的に考察し、考察した結果を適切に判断し、自分の言葉で表現している。 〔思考・判断・表現〕 〔ワークシート〕</p>

思考力・判断力・表現力をみとる評価問題

1. 安土桃山時代とは、どのような時代であるか、説明しよう。
 - ①教科書 P98～P101 を開き、安土桃山時代について説明するできごとや制度、法律、人名、国名など、キーワードをできるだけたくさん挙げなさい。
 - ②問題①で答えたキーワードを分類して図に示し、それぞれのグループにふさわしいキャッチフレーズをつけなさい。
 - ③安土桃山時代とは、どのような時代だったのだろうか。文章で説明しなさい。

【評価基準】

- | |
|---|
| <p>A 安土桃山時代とは、織田・豊臣によって、統一政権が誕生し、具体的な歴史的事象を挙げながら、安定した社会が出現した時代であったことを説明している。</p> <p>B 安土桃山時代とは、織田・豊臣によって、統一政権が誕生し、安定した社会が出現した時代であったことを説明している。</p> <p>C 無記入。または、安土桃山時代とは、織田・豊臣によって統一政権が誕生し、安定した社会が出現した時代であったことについて説明していない。</p> |
|---|